

日中友好新聞

No. 486

2006/09/05

発行所 日本中国友好協会

〒111-0953 東京都千代田区浅草橋2-3-3
 日中ビル5F
 電話 03(5839)2144(FU)
 03(5839)2141
 FAX 03(5839)2141
 http://www.jcfra.or.jp
 E-mail: jcfra@jcfra.or.jp
 社印 50119-1-21376

日中友好協会 岡山支部

〒705-0034 岡山市北区下伊福
 西町1-59 民生会館1F
 TEL: FAX: 086(258)-8806

日中友好協会 倉敷支部

〒713-8033 倉敷市福河町東2261-45
 TEL: FAX: 086(443)-7800

盆踊りの輪へ

留学生たちおおいに楽しむ

8月14日 車に分乗して参加



留学生・帰国者をさそって岡山の三大盆踊りのひとつ、備中たかはし松山踊りへ出かけました。

留学生のなかには浴衣姿で参加した人も数人いて、日本の盆踊りの楽しさをよく知っていたようでした。

誰でもがすぐに踊の輪に入って楽しめる「松山踊り」は、一六四八年の開始から三百年を越える長い伝統を持った行事。

毎年8月の14日から三日間開かれる日の初日に行きました。

留学生はロシア人やエジプトの人も含めて23人。中国帰国者が9人。日中の5人の37人が車六台に分乗して参加しました。

写真の浴衣姿はみな、留学生の姿です。若い彼らはすぐさま踊りを覚えて、楽しげに踊っていました。

とりわけ若者に人気の「地踊り」はテンポの速い踊りで、地もとの若者にも大人気の踊りです。

みんなもその輪のなかにすつかり溶け込んでいました。

エジプトの留学生は、もっと踊りたい。だから最終の電車で帰るので、車には乗らない方がいいかと聞かれまし

(澤山)



「日中岡山9条の会」発足へ

日中岡山9条の会を発足させることが8月29日の理事会で決議されました。

岡山全県で、次々と9条の会が生まれています。

日中岡山でも九条の会を作ろうという声は以前から出されています。

どういう形でとか、何をすればいいのかとか、はつきりとした目的を中々形にできませんでしたが、とにかく作ることが先決だということになりました。

まず、理事の真田紀子さんを代表として推薦。

目標として請願署名数を200名にする事(現在は81名)

二〇〇七年一月二十四日(水)に澤地久枝さんを迎えて開催される岡山県9条の会の集会を成功させる事(岡山市民会館で 笠木透と雑花塾のフォーカシングと合わせて開催されます。)

その他の活動は、これから皆さんに相談しながら決めていくことになります。楽しく、おしゃべりしながら進めていきたいと思います。

鴨井さん 湯口さん 餃子作りで高校生と交流

岡山県高校生社会問題研究連絡協議会(高社研)備前・備北地区は、八月三日〜五日まで、倉敷市水島のふれあい会館(在日大韓民国民団倉敷で、地域交流学習会を開きました。

この会は、中国残留日本人孤児問題に学ぶをテーマに生徒・教師約二十人が参加しました。

一日目は、蒼い記憶(満蒙開拓青少年義勇軍を描いたアニメ)の上映、日本と中国の近現代史の学習、翌日話を聞く船越さんの質問事項の確認など、事前学習を行ないました。



一日目は、午前中に「旧満州」の龍爪開拓団に住んでいた船越さんから写真や資料をもとに、次の二点についての話しを聞きました。

一点は、旧満州での家族や開拓団の生活、ソ連侵攻後の逃避行、収容所や長春での卡子(チャーゴ)体験など。

次に、一九五三年に岡山に引き揚げ後、中国帰国者の世話をした、県の生活指導員・自立指導員としての活動など。

生徒は、船越さんが示す写真や資料に見入り、熱心に話を聞きました。先生方は、長春の卡子体験に大変興味をもたれたようです。

午後からは、倉敷市粒江団地に住んでいる「残留日本人孤児」の鴨井・湯口さんの指導のもと、生徒・先生と一緒に水餃子作りを行いました。出来上がった一五〇個の餃子は、大変美味しく、あつというまになくなりました。その後は、南蓮さんの通訳で、中国と日本の手で数字を表わす場合の違いなど、楽しく交流しました。

三日目は、この交流学習会の成果を十月の県集会で発表するための準備をしました。

(小林)

次回の新聞発送作業は
 9月11日(月)午後1時半
 民生会館2階で行ないます。
 前回お手伝いくださった方です

小林 和
 澤山 内
 竹内 竹
 坪井 三
 垣

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://izhong.web.infoseek.co.jp>
 新・メールアドレス
izhong86@hotmail.co.jp



家族形態と人口の自然減少 (中国)

増える週末夫婦

中国では「週末夫婦」という新しい言葉が流行っている。これは週末しか同居しない夫婦のことを言う。

ここ20年来、経済成長が続く、人々の生活リズムも速まり、週末夫婦という新しい家族形態が出来上がり、今までのいわゆる伝統的な家庭に変化をもたらそうとしている。

週末夫婦の例を見ると、陳さんは公務員で週末夫婦に仲間入りした。彼は朝九時に出勤し、夜九時に帰宅する。妻の麗さんはホテルのマネージャーとして夕方から勤務している。結婚後、土・日以外は妻の帰宅を待ちわびる日々であった。

陳さんは妻に仕事を辞めるように迫ったが、妻は今のポストを捨てられないとい、それが夫婦喧嘩の元になるのもしばしばであった。妻はホテルに泊まり込んで仕事に専念し、週末は夫婦で一緒に過ごすことを提案した。

陳さんはしぶしぶ賛同した。彼は一人の静かな時間が増えたので、小説を書き始め、青年作家としてデビューした。一方、妻は精神的にも余裕ができたので仕事に専念でき業績が上った。週末になると夫婦で食事を作ったり、テニスをしたり、登山をしたりして楽しい生活が二年も続いている。二人は、将来子供ができたら、このような生活を終わらせようと話し合っている。

峯(夫)さんと鈴(妻)さんは、広州の商談会で知り合った。

峯さんは深圳市にある商社に勤務しているが、鈴さんは広州でビジ



年末天津駅の混雑状況

る。その半数以上が「年末夫婦」という。

年末夫婦とは、張さんのように一年を通して正月のみに帰省する夫婦のことである。中国では週末、特に年末の人口大移動が起こり、その原因はここにも多少あるだろう。

意思疎通が大切

中国社会では週末夫婦のあり方について賛否両論があるが、生活のため、仕事のためにやむを得ずこのようなライフスタイルを選んでいる人が増加しているのは事実である。一つの屋根の下で生活することができない現代の家族は、別居期間が長引くと、夫婦家族の絆が弱まり、離婚の危機が起きるのではないかと危惧されるが、精神科医

長期出稼ぎ 年末夫婦も

更に長期間家族生活が出来ない層がある。例えば張さんは出稼ぎ労働者として四川省の農村から上海に出て来て建築現場で働いている。

実家には両親と妻それに二人の子供を置いてきた。正月だけ帰郷して家族と一緒に過ごす生活が3年も続いている。妻と子供を呼び寄せたいが、上海では生活費や教育費などが農村と比較して5倍もかかる。辛い

が頑張る」と張さんは苦笑い。

中国社会科学院の調査によると、全国出稼ぎ者数は1億2千万人にのぼ

の趙さんはそれに対して処方箋を出している。

長期間離れ離れの夫婦は、寂しさで精神状態が不安定になりやすい。情報社会の恩恵を生かし、電話、テレビ電話やインターネットなどを利用して、意思疎通を図ることを忘れてはならない。互いに家・子供・仕事の事を話し合ったり、健康状態を尋ね合ったりすることは、夫婦の絆を強めるのに最も有効な手段である」と、提言している。

長年、週末夫婦を経験してきた李さんは、包容力と理解があったので夫婦関係を保つことができた」と語っている。中国の家庭問題研究所は、頻りに連絡を取り合い、相手に思いやりの気持ちを伝えることを心がけ、週末夫婦といえども結婚生活の質向上を無視してはならない」と警告している。

日本では単身赴任という言葉がある。単身赴任による「父親不在・母子密着」などの問題が起これば、家庭や子供の成長発達へのマイナス要因として議論されてきている。

小泉首相の靖国神社参拝に抗議する

内閣総理大臣 小泉純一郎殿

首相は15日、内外の強い反対の声を無視して、靖国神社を参拝した。日本中国友好協会は8月11日、首相に対し、靖国神社参拝を行わないように求める要請文を送付した。

この要請も踏みにじつての参拝に、私たちは満腔の怒りを持って抗議する。

靖国神社は、今もなお、侵略戦争を自存自衛の戦争、自由で平等な世界を達成するための避け得なかつた戦争」と正当化し、宣伝を強めてい

る。首相の靖国神社参拝は、日本国憲法の精神と原則にそむくものであり、国際社会によつて、小泉首相個人のみならず、日本の歴史認識が厳しく問われている。

日本語教室は楽しくを第一に!

中国でも同じ問題が起きることが避けられないだろう。しかし、中国では同居しない夫婦の増加は、人口の自然減少に繋がると考えられる。ここ数年DINKS夫婦共稼ぎ夫婦で子供がいない)が都会、特にホワイトカラーの中で増えてきている。最近

中国の四大都市北京、上海、広州、成都で結婚と出産について調査が行われた結果、20〜40歳代の女性の中で結婚しても子供を産まない人が、24.7%となっているという。(川崎医療福祉大学教授 社会学)

第五回日本語教室講師団会議が八月二日、長岡集合会場において講師十一名、受講者代表二名の参加で開かれました。

最初に自己紹介をかねて、一学期の授業の感想を出し合いました。その中で漢字能力検定問題集をテキストに使用していることについて、次のような疑問が出されました。

一つは、この教室は検定試験を受けるための塾ではない。

二つには、検定を受けることを目的にすると事前のテスト実施など、競争を生み、楽しく学習できなくなる。

これを受けて話し合い、以下の確認をしました。

この教室は、あくまで中国帰国者及びその家族が日本語に触れる場であり、会話や発音を中心に、みんなの日本語を基本テキストにすすめていく。

漢字能力検定問題集をテキストに使用するのは、一年生から六年生までの漢字を段階的に学習するためのもので、検定試験を受けることが目的ではない。もし、受講者の中から検定を受けた人が出た場合は、その時に対応を考える。

最後にこの教室は、なによりもまず参加者が楽しく学習できる場として今後も運営していくことが大切であると全員で確認しました。



聞社からの助成金の取り扱いについては、会場費など必要経費を差し引き残額を講師の交通費などにあてるとにしました。次に九月から来年の一月までの講座予定日と次の二つの日程を確認しました。

- ◎ 日本語教室開講一周年記念、十一月二十五日(土)長岡集合会場
- ◎ 第六回日本語教室講師団会議二〇〇七年一月十日(水)長岡集合会場

最後に日本語教室の運営組織と役員について事後承認をおねがいしました。

- 運営組織 中国帰国者の日本語教室・岡山の会
- 代表 澤山博一
- 副代表 高杉久治 大森靖宏
- 事務局長 小林軍治
- 監査 井上進夫

(小林)